

私の視点

UVA曝露でサンバーンを繰り返すUV recall現象

森脇 真一(大阪医科大学皮膚科学教室 教授)

Recall現象とは、過去に生じた皮疹をなんらかの薬剤投与後に再び同じ部位にひきおこす「呼び戻し」現象である。放射線治療による急性皮膚炎の既往があり、ゲムシタピンなど抗がん剤投与後に過去の照射野に一致して急性炎症が惹起される(radiation recall reaction)、あるいはドセタキセルなど抗がん剤の血管外漏出の既往があり、同剤を他部位から投与したにもかかわらず、治癒状態にある過去の漏出部位に一致して炎症が再燃する現象(recall injection-site reaction)が知られている。

まれではあるが、放射線治療や抗がん剤漏出ではなく、太陽紫外線、もしくは人工紫外線(日焼けサロン、光線療法)による急性炎症の既往があり、その後MTX、エトポシド、パクリタキセルなどの投与後に、過去の急性炎症部位に一致してサンバーン様皮疹が再燃した場合はUV recall現象(sunburn recall reaction)と呼ばれる。

最近、われわれはこれまで経験したことのないrecall現象と思われる症例と巡り合った。40代の男性で、頻回に日焼けサロンに通い、激しい炎症をおこした既往があった。その後、海水浴、露天風呂などで短時間皮膚を露出するたびに、数時間後に胸腹部、大腿に手掌大までの水疱を伴うサンバーン様の発赤、腫脹を繰り返していた(図)。皮疹が生じる部位は、日焼けサロンで強い炎症をおこしたと思われる色素沈着部が中心であった。皮疹が生じない背部皮膚にて光線試験を実施したところ、24時間後MEDは正常、UVAは10 J/cm²まで紅斑なし。ところが、毎回皮疹が生じる部位(色素沈着部位、その周囲の一見正常にみえる皮膚)で光線試験を行ったところ、UVBへの感受性は変わらなかったが、UVA 5 J/cm²照射で紅斑反応が誘導された。

前述のUV recall現象では、新たな皮疹の誘発にはUVは関与しないことから false photosensitivityと呼ばれている。一方で、今回経験した症例はUVA曝露により部分的ではあるが多発性にUV recall reactionが生じており、日常生活においてかなりのQOL低下を伴う明らかな光線過敏症である。

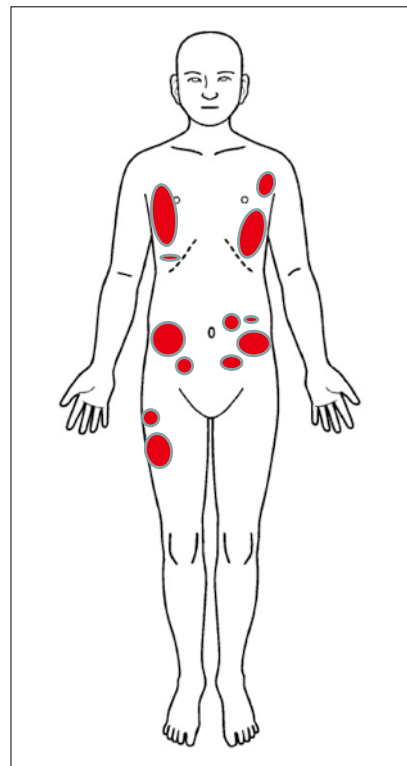


図 Recall現象によるサンバーン様皮疹の出現部位